

令和3年度 第1回文京区地域精神保健福祉連絡協議会 要点記録

日時 令和3年10月21日（木）午後2時05分から午後3時30分まで

場所 区議会第一委員会室

<会議次第>

1 開会

2 議事

(1) 文京区の精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の取り組み【資料第1号】

(2) 退院後支援事業の実績報告【資料第2号】

(3) コア会議の実施報告および今後の取り組み方について【資料第3号】

(4) 意見交換

3 事務連絡

<外部委員>

出席者

守谷 直樹委員、平賀 正司委員、小澤 元美委員、澤田 欣吾委員、大高 靖史委員、
福田 博文委員、成塚 康之委員、宮崎 洋子委員、内野 篤委員、坂田 賢司委員、
皆已 純恵委員、高田 俊太郎委員、鈴木 重時委員、松尾 裕子委員、美濃口 和之委員、
星野 知子委員、前山 榮江委員、中山 雅美委員

<区側委員>

出席者

笠松保健衛生部長、八木教育推進部長

<幹事>

出席者

長嶺予防対策課長、阿部保健サービスセンター所長、畑中障害福祉課長、大戸生活福祉課長、

<傍聴者>

0名

予防対策課長：それでは、皆様、本日は大変お忙しい中、ご出席賜りましてありがとうございます。
ます。

ただいまより、令和3年度第1回文京区地域精神保健福祉連絡協議会を開催いたします。

本会議幹事の保健衛生部予防対策課長の私、長嶺と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは初めに、令和3年度の外部委員の委嘱についてご紹介させていただきます。東京都精神保健福祉センターの小澤元美様でございます。委嘱状は席上に置かせていただきましたので、ご確認ください。ほかの皆様は、昨年から引き続きお願いをしているところでございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは次に、事務局より、本日の出席状況及び配付資料についてご説明をいたします。

事務局：私は事務局の予防対策課精神保健係長の佐藤と申します。よろしく願いいたします。

本日の出席状況は、外部委員につきましては全員出席をいただいております。

配付資料につきましては、次第及び資料第1号から第6号までとなっております。

次第にも配付資料のご案内をさせていただきますが、議事資料は、資料第1号から第4号、参考資料としまして、第5号及び第6号の協議会の要綱及び委員名簿を配付しております。不足資料がございましたら、こちらからお持ちしますので、挙手いただければと思います。

それから、今回の会場につきましては、区議会第一委員会室となっております。コロナウイルス感染対策として会場を広く使っております。つきましては、ご発言に際しましては、マイクをご使用ください。マイクについてはスイッチを押してから発言をいただきまして、終わりましたら、スイッチを切っていただければと思います。ご協力をお願いいたします。

また、本日の終了時刻は、3時30分を予定しております。

私からは以上です。

予防対策課長：それでは会議に先立ちまして、保健衛生部長、笠松よりご挨拶申し上げます。

保健衛生部長：保健衛生部長の笠松恒司でございます。日頃より皆様には、区の精神保健衛生にご尽力いただき、感謝申し上げます。文京区地域精神保健福祉連絡協議会にお集まりいた

だき、誠にありがとうございます。

また、先日開催した委員の有志によるコア会議におきましては、急なお願いにもかかわらず、多くの委員の皆様にご参加、ご協力いただき、ありがとうございました。

精神疾患は生活習慣病と同じく誰もがかかり得る病気であり、入院患者の中には、居住先や日常生活に対する支援といった受入れ条件を整えば退院可能といった方々がおり、区では現状を分析し、課題を共有、解決を進めてまいります。

そのため、本協議会におきましては、昨年度より、保健・医療を起点とした基盤整備の検討と福祉を起点とした基盤整備の検討、それぞれを統合した地域づくりの検討の場として位置づけております。

本日は「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」で実施している退院後支援事業の報告と、コア会議の報告及び今後の進め方の方針について協議を行う予定となっております。

医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加、地域の助け合い、教育が包括的に確保された文京区の精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指すため、皆様からの活発な議論をよろしくお願いいたします。

予防対策課長：それでは、議題に入ってまいります。以降の進行は本会議の会長である守谷委員にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

守谷会長：今回もまた会長を仰せつかりました。私は守谷医院の守谷です。

早速会議に入りたいと思います。これには皆様のご協力が必要なので、よろしくお願いいたします。

最初の議事は、「文京区の精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の取り組み」です。事務局の方、よろしくお願いいたします。

予防対策課長：本日の会議を実施するに当たりまして、「文京区の精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の取り組み」について振り返りをさせていただきます。

資料第1号をご覧ください。この表は、精神障害者の地域移行に関する国の動向と文京区の精神保健施策をまとめたものになります。

近年、精神疾患の有する患者の数は増加傾向にあり、平成29年には約420万人で、疾病別患者数では脳血管疾患や糖尿病を上回っている状況で、さらなる精神保健福祉施策が必要とされております。国の動向としては、平成16年に「精神保健医療福祉の改革ビジョン」より「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本理念が示され、様々な施策が行われてまい

りました。平成29年に厚生労働省は「地域共生社会」の実現を基本コンセプトとして今後の改革を進めていくことを示しております。

何度もご覧になっているかもしれませんが、下の図は精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のイメージでございます。地域共生社会を実現するためのシステム、仕組みとされておりますが、「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会」の報告書において、精神障害の有無や、その程度にかかわらず、誰もが地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができますよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加（就労を含みます）、地域の助け合い、教育が包括的に確保された、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を構築することが適当とされております。

次のページ、上の資料は、平成30年度の第5期障害福祉計画では、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを構築するために、「協議の場」を設置することとされ、文京区においては令和元年度より本協議会、文京区地域精神保健福祉連絡協議会を協議の場といたしまして、医療分野の委員も増やし、再編をしております。

文京区の動向といたしましては、令和2年度には地域のアセスメントを深め、課題を共有するために、地域の課題の共有のためのアンケートを行い、それを基に議論をするなど、協議を行ってまいりました。

その中で今年度は、前年度の協議会での意見を基に、試行的に委員の有志によるコア会議を実施しております。

また、他方では「にも包括」の構築に向けまして、下の資料のように、平成30年度には、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築事業が開始されまして、令和2年度より文京区も協議の場に加え「退院後支援事業」についても財政的な補助を受けているところでございます。

以上で文京区の精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の取り組みについて、振り返りとさせていただきます。

守谷会長：どうもありがとうございました。

次の議題は、「退院後支援事業の実績報告」です。また事務局の方、よろしく申し上げます。

事務局：私、退院後支援事業の事業担当をしております、精神保健係の柳瀬と申します。よろしく申し上げます。

事業担当より報告させていただきます。資料第2号をご覧ください。

平成30年に、地方公共団体による精神障害者の退院後支援ガイドラインが示されておりま
す。内容としては入院した精神障害者に対して、自治体を中心となった退院後の医療等の支
援を行うもので、具体的には障害の受容が困難とされて、支援者への不信感を抱きやすい非
自発的入院者のうち同意が得られた者に対して、退院後支援計画を作成するものです。本人
の同意が得られない場合も、精神保健福祉法47条による相談支援等を提供できるように環境
調整を行っていくことで、支援することとされております。

文京区でも措置入院者を対象として、ガイドラインを基に、文京区独自の「退院後支援事
業」を実施しております。

次、1ページ目、下のものになりますが、文京区の実施方法としては、退院後支援担当の
保健師を配置、措置入院を把握したら、対象者の方にできるだけ早期に接触して、信頼関係
の構築を図る。

その上で、本人の同意を得て、本人の支援ニーズを的確に評価する。

保健所が主体となって、本人及び家族その他、支援者並びに支援関係者等の参加による支
援会議を開催して、計画の内容等を協議する。

本人の支援ニーズ及び支援会議の結果を踏まえて、退院後支援計画を作成する。

その後、計画に沿った支援を実施して、退院後支援計画期間終了時、基本的には6か月後
になるんですけども、支援会議を実施して、計画の進捗状況及び本人の支援ニーズを確
認。計画終了後は通常の支援体制に移行する、という流れで支援しております。

次、2ページ目です。上の図です。退院後支援のイメージ図になります。

本人を中心として、様々な支援とか課題を抱えて、包括的な支援が必要な対象者に対し
て、顔が見える連携による地域の支援体制の整備を通じて、精神障害にも対応した地域包括
ケアシステムの構築に寄与するということを目指しております。

先ほど、にも包括の取組についての振り返りの際も説明で触れておりますけれども、資料
第1号の2ページ目の下の図です。厚労省の資料のとおり、文京区でも、にも包括の構築推進
事業の一つとして、退院後支援事業に取り組んでいるところです。

続いて実績になります。令和元年7月以降、令和2年度末時点で、区内では23条通報を106
件受理しております。そのうち72件が文京区民で、措置になった人というのは区外の23条か
らの措置入院も合わせて、計31件となっております。

次、3ページ目に移ります。

31件、先ほど措置入院をしたということでお話をしたんですけども、そのうち22件は直

接支援を実施できたという形になっております。そのうち10件が、退院後支援計画を作成しております。

措置入院者で、直接支援に至らなかった31件のうちの22件を引いた9件の内訳です。病院からの説明で、本人が支援を希望しなくて初回の面接に至らなかった者が5件、高齢者とか知的障害者、地区担当といった、他機関での支援を主としており、保健所の支援を要さなかった者が3件、ほかの自治体に退院した者が1件でした。

直接支援を実施したんですけれども、計画の作成にまだ至っていない12件の内訳については、高齢者支援機関が対応した件数が2件、地区担当による通常支援をした者が2件、計画作成前にほか自治体へ転出することとなった者が2件、計画作成を希望しなかった者が1件。あとの5件は現在も入院を継続おまして、支援を継続している5件については、今後支援計画を立てる見込みのものも含まれます。

下の表が、令和2年度の退院後支援の23区内の各自治体の支援状況を示したものです。

文京区は措置入院者が19件で、そのうち把握した者が19件、支援に至った者が14件という結果でした。

把握数については、文京区で23条通報が出たものに対しては、東京都に情報照会をして、措置入院の状況を把握して、支援につなげることができるというルートがあるんですけれども、区外で措置入院となった方については、個人情報観点から、入院先の病院から情報共有とか支援依頼をいただかないと、措置入院を区のほうで把握することができません。

ほかの自治体の措置数と把握数が異なっていることがあるんですけれども、文京区は措置数を全数把握できていて、その措置数全数を把握できたというのが、事例を通して措置入院先の病院と積極的な連携をすることで、徐々に病院から情報共有であったりとか、支援依頼を受けやすくなっていて、措置入院となった方の把握ができるようになってきた結果だというふうに捉えております。

次、支援数としては14件で、措置入院のうち7割が何らかの支援を実施できているという結果でした。

次の4ページ目の図です。これは、先ほどお話しした数字をグラフ化したものなんですけれども、文京区では措置入院者の経過を全数把握できているということ、そこは積極的に活動できている結果だというふうに考えております。実施率自体も7割を超えていて、ほかの自治体よりも高い水準で支援が実施できております。

あとは、最後に数としてはまだ今回出せていないんですけれども、退院後支援計画を作成

した10件について、様々な支援機関の協力を得て、延べ数として約40以上の関係機関で、対象者の方へ支援体制を構築することができておりました。今後も、地域の皆様と協力しながら、積極的な支援を実施できればと考えておりますので、重層的な支援体制の構築に向けて、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

以上で退院後支援事業の実績報告とさせていただきます。

守谷会長：ありがとうございました。

精神科医の私にとっては非常に興味深い数値が出ていて、これがますます円滑に進むことを願っています。

ここで、この件についてのご質問などがございましたら手を挙げて発言ください。

(なし)

守谷会長：ないようなので、質問は後のほうでもまた受け付けられると思います。

では次の議題、「コア会議の実施報告および今後の取り組み方について」、事務局の方、またよろしくお願ひします。

事務局：では、資料第3号をご覧ください。

以前の資料の抜粋になりますが、1ページ目の上の図は、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムのイメージ図を文京区に落とし込んだものになります。下の枠組みの中に書かれておりますように、精神障害のある文京区民も同じ区民の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加、地域の助け合い、教育が包括的に確保された文京区の地域包括ケアシステムの構築を目指す必要がございます。

また、昨年度、地域のアセスメントを深めていくに当たり、にも包括の構成要素毎にアンケートを実施したところでありますが、協議会にて、「もう少し忌憚なく話せる機会を」と、ご意見をいただき、有志によるコア会議を試行的に実施したところです。

コア会議の開催に当たりまして、にも包括の構築に係る検討会報告書、1ページ下の概要の中で、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に係る基本的な事項として、下線部の「精神疾患や精神障害に関する普及啓発を推進することは、最も重要な要素の一つ」とされていることもあり、検討のテーマを普及啓発に絞って実施したところです。

なお、同報告書の中で、普及啓発にはメンタルヘルス・ファーストエイドの考え方を活用する等、態度や行動の変容までつながることを意識した設置が必要とされているため、メンタルヘルス・ファーストエイドの考え方について情報共有させていただきます。

次のページ、メンタルヘルス・ファーストエイドについての資料になります。

こちらは、心理的危機に陥った方に対して、専門家の支援が提供される前にどのような支援を提供すべきか、どのように行動すべきか、という対応法を身につけるプログラムになっております。

精神疾患への偏見と差別を減少させ、精神疾患への応急対応方法を伝えることが目的とされているもので、同様の考え方を活用している例として、自殺対策におけるゲートキーパーの養成や認知症サポーター養成があります。

では、コア会議の普及のほうに戻らせていただきまして、文京区の取組や、特徴・強み、文京区の今後の取組について、コア会議で出された意見を共有いたします。

まず、資料第4号です。こちらがコア会議で使用した資料となります。進行の流れとしましては、事前にアンケートにて各事業所等から現在取り組んでいる周知啓発活動について提出をいただいたものを資料として取りまとめ、各事業所等により直接ご説明をいただき、現在の取組を把握した上で、強化したほうがよいものと思われる取組、不足している取組、課題やアイデア等について意見をいただいたものを、戻りまして資料3の3ページ以降に取りまとめをしております。

取り組み①としましては、「心のバリアフリーハンドブック」等の発行や、今年度11月21日にオンライン開催で本協議会委員の中山委員も登壇者として参加される「共生のための文京地域支援フォーラム」等の開催、取り組み②としまして、各種地域のお祭りへの参加や清掃活動の実施、次のページの取り組み③としまして、各事業所等主催のバザーの実施や社会福祉協議会の夏のボランティア体験での中高生の実習の受入れ、それから東京大学の学生・教職員を対象とした芸術活動と医療福祉従事者が連携をし、社会全体の健康向上をするための芸術活動の研究として発達障害の当事者の演劇をオンライン上映した「CO-EN project」等の取組が実施をされております。

文京区の特徴・強みでは、坂、タワーマンション、大学、教育機関、出版関係が多く、支援者間のつながり・連携が取れている、地域に密着した活動が行われていることが挙げられました。

区の課題としては、大学が多いが若者に対する周知が不十分、ピアの活動の場が少ない等意見をいただきました。

今後の取り組みに対するアイデアでは、学生や職員向けにメンタルヘルス・ファーストエイドの研修を行うや、大学と協働した普及啓発活動の実施、事業所の様子や活動を動画にし

て周知をしていく等のご意見をいただきました。

そのほかにも、「周知啓発事業は数値で測ることが難しく、どうやって評価をするのが課題である」や「今回、会議に参加すると知らないことがたくさんあり、事業所としても何かできないかと感じた」、それから、「医療と福祉の連携に関しては、実際のケースを通して連携していくことも大切である」、それから、「地域のストレングスと周知啓発を融合することが大切である」、また、教育との連携では、「来年4月から高校3年生の授業に精神保健の授業が導入されることになったので、当事者が授業で話したり、社会貢献をする姿をみせることなどが必要だ」という、様々な視点からの活発な意見交換をしていただきました。

以上が、コア会議を実施した結果の報告となります。

続きまして、6ページをご覧ください。こちらの資料ですが、国が示したケアシステムの構築プロセスが示されております。地域課題の共有、目標設定、連携構築、成果の評価となっております。

この国のプロセスを参考に、文京区の子精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今後の取組方につきましては、今回、コア会議を有志として意見交換を行いました。そのほかの構成要素についても、地域アセスメントを深めていき、その上で「地域ビジョン(地域のあるべき姿)」と具体的な目標設定をするプロセスが必要であると考えております。

下の表にありますように、区の最上位計画である「文の京」総合戦略や分野別の障害者・児計画、保健医療計画には、それぞれ精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に関する項目が記載されておりますが、それらの計画の次期計画に具体的な目標設定ができるように、今年度試行的に行ったコア会議を令和4年度、5年度にかけても実施をし、協議を重ねていく必要があると考えております。

私からは以上です。

守谷会長：ありがとうございました。私もコア会議に参加させていただいて、いろんな方面からの意見が聞けて非常に参考になりました。

では、続いて意見交換に移りたいと思います。

先ほど説明があったとおり、コア会議で話し合われた「普及啓発」の内容に対する補足や取組方に対する意見と、包括ケアシステムの構築に向けた協議会やコア会議などの今後の進め方に対する意見、これら2点について、委員の皆様からご意見いただきたいと思っております。

順番として、コア会議に参加していただいた高田委員の列から順番にやっていただきたい

ので、よろしく申し上げます。

高田委員：文京地域生活支援センターあかりの高田です。

コア会議に参加させてもらって、守谷会長もおっしゃっていましたが、私自身も分からないこと、知らないことがあって、とても勉強になる会議でした。

今回、初めてのコア会議という取組でしたけれども、なかなかこの会議の様相ですと緊張してしまってしゃべれないことも、ちょっとしゃべりやすかったんじゃないかなというふうに、私自身はとても感じました。ちょっと手を挙げていいのかなとか、ちょっと聞いてもいいのかなというふうに構えてしまうところが、ちょっと話しやすく聞きやすくて、頭に残りやすかったなというふうに印象を抱いております。

今回、取り組んでいただきます周知啓発については、今回あかりで行っている、私の事業所でも行っていること、できていることというのは、資料にまとめてくださってはいるんですけども、一事業所としては全く取り組めていないという評価を内部ではしていて、非常に大きな課題だというふうに受け止めております。なので、そういう意味では今回このテーマで取り組むことで、私自身一事業所として、どういうふうに地域に関わっていけるのかというのを、改めて課題としてもらっているなというふうに思っております。

文京区の特徴を挙げてくださっているので、この中でどういったことができるのかというところを、何か具体的にご意見を出し合いながら考えていけると何かいいのかなというふうに思っていました。前段の前回行っていただいたアンケートでも、同じ事柄でも支援者によって、立場によって、その評価が分かれる、いい評価と実は悪い評価という、評価が分かれる項目も前回あったかと思しますので、そういういろんな視点があるからこそ多角的に見ることができると思しますので、今日この場の中でそういったお話、いろんな立場の方が今日も皆さんご参加くださっているので、意見交換ができるといいのかなというふうに思いました。

これは後で、どこかで最後時間があればなんですけれども、先ほど柳瀬さんからご報告をいただきました退院者の措置のところ、6か月という期間があるというふうにありましたけど、その6か月で済まなかった場合にどういうふうにしていくのかとか、そういった方、要は時間がかかる方を、6か月以上必要な方を、じゃあどういうふうに地域で受け入れていくのかというところが、何か大事なポイントなんじゃないかなというふうに思いました。

思った理由としては、地域移行の事業者でもあかりはあるんですけれども、大体6か月で済まない方がほとんどで、1年とか、1年半かけてやっと退院される方が多かったので、この

6か月というのは、半年ですけど、長いように見えてとても短い期間じゃないかなと思ったので、この包括ケアシステムと一緒に考えていく中では大事なことかなと。期間が過ぎてしまった方をどういうふうにか考えるのかということも大事なことかなというふうに思いました。

以上です。

事務局：先に、質問に対するご解答だけさせていただきたいと思います。事業担当をしております、柳瀬です。

6か月という期間、一応ガイドラインのほうで、基本的には6か月というふうに定められていて、というのも毎年、毎年、やっぱり措置入院の方というのはどんどん出てきていらっしゃるので、そういった意味でちゃんと回っていくようにというところで、一つは6か月という線引きをさせていただいております。

ただ、6か月終わったらそこで支援がぶつと切れるのではなく、基本的には通常の支援に移行していくというところで、通常の支援チームができていて、その支援チームで支援してできるのであれば、そこで移行していく。ただ、そこにもう一度テコ入れが必要そうな場合というのは、また再度必要に応じて延長をして、その期間の中でもう一回チームをつくり直していくというような作業をしていくような流れになります。

やっぱり実際に事業を担当してみて、6か月ではなかなか、もう全て改善して終わりということにはならないので、そういった意味でも長期的にサポートするような仕組みは必要かなと思っていて、6か月で切れたからといって、全く知らないよというわけではないということ認識しております。ありがとうございます。

守谷会長：次、中山委員、どうぞ。

中山委員：中山と申します。私は、コア会議に初めて参加させていただいて、あまり意見とか言えなかったんですけども、皆さんの意見とかを聞いて、とても勉強になりました。

私自身は文京区に住んでいますけれども、やっぱり環境がいいのと、住んでいる人がとても意識が高いなと思っています。この間も百貨店祭りがあって、参加してお手伝いをしたんですが、皆さんいろいろな方に来ていただいて、楽しんでいただいたんじゃないかなと思っています。

ただ、やっぱり精神障害に対して理解されていないこともあると思うんですけども、当事者が進んでいろんな話をして分かっていただけたらなと思っています。まとまりがないんですけども、以上で終わります。

ちょっと分かりづらいところというか、言葉自体が難しくて、ちょっと一般の方には分か

らないかなと感じることがあるので、それもちよっと意見として言わせていただきたいと思っています。

以上です。

皆巳委員：社会福祉法人本郷の森、銀杏企画の皆巳と申します。よろしくお願いいたします。

私もコア会議のほうに出させていただいたんですけども、通常のこちらの会議ですと、こういったちよっと格式の高いじゃないですけど、やはり高田さんもおっしゃっていたように、すごく発言に対してもちよっと一つ構えたり緊張したりとかする場面ではあったんですけど、コア会議はZ o o mを使ったオンラインの会議で、私は今勤務時間がコロナ時間ということで、ちよっと短時間勤務になっているので、夕方の時間帯だったので、実は自宅からオンラインで出させていただいたというのもあって、すごく自分の中ではとてもリラックスした雰囲気皆さんとお話できて、すごくいい会議だったなと思いました。

通常、うちの事業所の方の利用者さんの平均年齢が、今もう50歳近い方たちが多く中でふだん仕事をしているんですけども、コア会議の中ですごくやっぱり印象的だったのは、学生に向けてのメンタルヘルスのサポートというところがすごくないのかなという。取組はすごくたくさんしていらっしゃるところも多かった印象もあるんですけども、そこがもうちよっといろいろできるんじゃないかという話があったのがすごく印象的で、私の中ではそういうふうな若年層というか、若い方のまだこれから未治療の方だったり、これから発症することがあるかもしれない皆さんたちへの啓発の活動の重要さというのを改めて、すごく考えさせられる時間になったのかなと思って、すごく勉強になりました。

あとは、ここの会議の中だけではちよっと見えない部分がたくさん見られたのが、すごく話しやすかったところがよかったので、自分たちは発信はしていないけれども、声がかかったら何でもやりますよと言っていただいたところもあたりですとか、逆にうちはこういうことをやっていますよというところがすごくアイデアがたくさんあったのが、すごく勉強になる時間だったなと思って、本当にいい企画をしていただいたなと思って感謝している次第であります。

さっき中山さんが先日百貨店祭りのお手伝いに出ましたという話は、この資料の中の4号のスライドの23という番号がついている、銀杏企画の中でのマッチング本郷の百貨店祭りというところで、地域連携のイベントのことで、アンケートに回答させていただいたお祭りのことだったんですけども。これは、近くの商店街の方たちや東大の学生さんだったりとかが集まって地域を盛り上げようという団体がありまして、私どももそこに参加させていただ

いているんですけども、本郷台中学校、本郷三丁目の丸ノ内線の駅の目の前の中学校の場所をお借りして毎年百貨店祭りということで、地域の事業所であるとか、あとは薬剤師さんの勉強会とか歯科医師会みたいな集まりがあって、いろいろなイベントをやるという会で、法人としても参加させていただいたのに、中山さんはお手伝いとして出ていただいたりとかしている感じで、何か地域に根差したイベントをこれからも皆さんのアイデアをいただきながら、実施できたらいいなと思ったりしている次第であります。

以上です。ありがとうございます。

坂田委員：社会福祉協議会の坂田と申します。私も前回のこのコア会議に参加させていただきまして、非常によかったのが、こういうふうに各団体が持っている活動事業、内容とか、こういうふうに紙に落として整理されているので、それぞれの団体がどういう事業をさされていて、どういった思いで、言葉で語っていただいて、活動されているかというのが非常に分かりやすく、よかったなと思いました。

また、こういった、それぞれの団体がやっている事業内容ですとか、活動内容ですとか、なかなか関係者機関でも知られていないことが多いのかなと非常に感じています。制度ですとか、こういった様々な支援が地域にあるということを、我々もまずは知ることが大事なんですけど、現場レベルで相談支援を行っている職員とか、多分それぞれの団体でいると思いますので、やっぱりそういった現場の職員に周知を図っていくことが、実際、この資源を有効に活かしていくために必要なのかなというのが、非常に感じたところです。

以上です。

守谷会長：では次、こちらの前山委員をお願いします。

前山委員：いつもお世話になっております。申し訳なかったんですが、コア会議は出席できなくて、失礼してしまいました。

おかげさまで文京区家族会も勉強会、文京MCA家族の広場、これを基幹相談センターとか、社協、あと予防対策課とか、いろいろなところからのサポートをいただきながら、活発に行って、大変評判がよくて、文京区の方がもっと増えてほしいんですけど、他区のほうからとか、遠くは神戸の西宮のほうからも参加していただいております。

私、つくし会のほうで、今理事をしているんですけど、今度会長会議があるんですけど、来月5日に。文京区はすごく活発にやっているのでも、家族会がなくなってしまう区もあったり、会員が増えないけども、そこで元気な家族会二つ選ばれて、その一つ、文京区家族会が発表することになっております。

会員も本当新しい方がどんどん、基幹のほうからのご紹介とか、私に個人的にお電話いただいてご相談に乗ったり、あとつくし会のほうで毎週水曜日、電話相談をやっているんですけど、そちらにも私は参加させていただいて、そこからのつながりとか、大分増えております。皆さん、とても喜ばれて、いろんなどころにつながっていくみたいで、私としても本当に自分だけの力じゃ到底できませんけども、行政のほうのご支援をいただいて、連携しながら活発にできているなど、改めて思いました。

ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

宮崎委員：訪問看護ステーションほのぼのらいふの宮崎と申します。よろしく願いいたします。

私も先日コア会議に参加させていただきまして、知らないことだらけでした。私どもとしては、本当にご自宅に訪問するという形で、特に自分たちで何かをやっているというよりは皆様からいただいた情報をそれぞれのお宅に届けるというか、そういう形でしかちょっとご協力できていないのが現状だったんですけれども、知らない情報がいっぱいあったので、とてもよかったですと思いました。それで、コア会議の場だと、あまり緊張せずにお話できたかなというのもあったので、またそういう機会がありましたら、ぜひお声がけいただければと思います。

あと訪問看護は様々な疾患のお宅に行くので、精神疾患だけではないんですけれども、ここに行つてうんと思うことが結構あるんですね。よくお話を聞くと、やっぱり何らかの鬱病とかお病気を持っていて外に出したくないとか、もしくは気づいていないとか、そういう方々が結構いらっしゃるんで、私たちの力、本当に微力ではありますがけれども、皆様からいただいた情報を少しずつでもお伝えしていけたらなと思っています。

あと、今、前山様が家族会のことをおっしゃっていましたが、私どもが訪問させていただいているお宅で、家族会に参加されている方が、文京区いいなと毎回言われるそうです。先生たちも区役所も、あとそれぞれの事業所さんたちもみんなが協力してくれて、文京区で本当によかったと思っていますと、毎回言っていていただいております。今後ともよろしく願いいたします。

以上です。

内野委員：民生委員・児童委員協議会の内野でございます。コア会議には所用があつて両日も参加できなくて申し訳ありませんでした。

なかなか専門的なこういう会議についていけないところがたくさんあるんですけれども、

私ども民生委員・児童委員は1期が3年なんですけれども、その3年間、文京区では部会が、障害福祉、高齢福祉、児童福祉、生活福祉と四つある部会のどれかに所属して、その分野を中心として勉強していくことをやっています。したがって、障害福祉部会に所属すると3年間は勉強するんですが、ほかの4分の3のメンバーはほかの部会の担当になりますので一切——一切じゃないですね、特に深くは勉強しません。特別な機会があれば全体の研修会で研修をするということをやっております。

ですので、障害福祉部会に当たる機会も4分の1ですし、その中でも当然、知的障害、身体障害に関しても順番に勉強していきますので、精神障害に特化した知識というのは、なかなか得難いというところが現実にございます。しかし、そういう部会においては、機会があるごとに基幹相談支援センターさんも含めて研修会を開いていただいたりして、いろいろ知識を深めるようにしております。地域住民として、まず我々からそういう理解を深めて勉強して、皆さんの支えというふうになれたらと思っております。

以上です。

守谷会長：どうもありがとうございました。

では、次は後ろの鈴木委員お願いします。

鈴木委員：私もコア会議には参加できていませんし、それから、またこういう機会に出るのも非常に少なく、意見を申し上げることはないんですけれども、一つだけ、私どものほうで実施している事業の中で、もしかしらご参考になるかなと思うことがあったので、それをちょっとご披露しようかなと思ったんですが。

私どもでは、電話受付サービスというのをやっています、困っている方から電話を受け付けるんですけれども、その受付係をボランティアの方にやっています。そうすると、そのボランティアの方がいろんなこういうケースがあるんだということで、自分たちの勉強にもなりますし、それからまた電話をかけてきている方もボランティアの方だということで、何か話しやすいということで、かなり情報を取るのにいい動きをしてもらっておりますので、一つご参考になるかどうか分かりませんが、そういう内容の事業があるということをご披露したいと思っております。

以上です。

松尾委員：エナジーハウスの松尾と申します。よろしくお願いたします。

私もコア会議に参加させていただきました。エナジーハウスは、もともと千駄木という地で今活動しているんですけれども、比較的下町のような地域で、地域とのつながりが結構大

事というか、大事にしながら活動していたので、今回のテーマがコア会議に参加してとても話しやすかったなというふうに感じています。また、ほかの事業所の取組ですとか、文京区の強みとか、特徴とか、いろいろなことがコア会議で理解することができて、とても有意義な時間だったかと思います。

エナジーハウスとはまた別に、今年の10月に新しく駒込生活あんしん拠点という事業が始まりまして、その事業の一環で、これからサロンを開設していくという、今準備を行っているんですけども、障害がある人もない人も、ふらりと立ち寄れる場をつくろうということで、今地域住民の方も一緒に会議に参加していただいて、サロン開設の準備をしているところなので、より一層地域と住民の方との関わりもこれから増えていくかなと思って、これからが楽しみだなというふうに感じております。

また、このようにコア会議のように、あるテーマに沿って皆さんで情報共有をする時間を持っていただくと、とても皆さんの意見をじっくりと聞けるのも楽しみですし、私自身も自分のふだん考えていることとか、発言しやすいなというふうに感じましたので、またぜひよろしく願いいたします。ありがとうございます。

美濃口委員：文京区障害者基幹相談支援センターの美濃口と申します。皆様、日頃から大変お世話になっております。

私、先ほどの議題のところで、1点質問をさせていただきたくて、退院後支援のところで保健師さんを配置していただいて、退院促進のほうを今進めているということで伺って、恐らく今年度からまた担当をもう一人増やしていただいてという状況だとは思いますが、実際に私も相談の現場で一緒に動かさせていただいております。地区担当保健師はお忙しくて、いろいろほかの事業なんかもやりながらになると、なかなか重点的に関わっていただくというのも、ちょっと難しい状況がある中で、専門の窓口を立てていただいたというところで、大変感謝しています。

実際のところ、人を増やして相談件数もどんどん増えたりとかする中で、実感としてはまだまだ人員というか、窓口としての対応人数が足りているのだろうか、どうなんだろうかというところが1点気になった部分と、恐らくそういった窓口をしっかりと立てることでの、後方転送と言って、恐らく日本医科大学付属病院等の大学病院で受けてくださった方が東京の西のほうに、山奥のほうに行くことをもしかしたら防いでいる部分もあるのではないかと期待しています。その窓口を配置したことによっての長期入院の方が減っているのか、後追いはしていけるといいかなと思いますし、ぜひとも長期入院患者をこれ以上生まないための窓

口、今も十分していただいているとは思いますが、さらなる強化のほうをできればお願いしたいです。

コア会議のほうは私も参加させていただいて、非常にいろいろ勉強になったんですけども、今ご参加いただいている中山委員と一緒に会議で、中山さんとすごくいろんな場面でご一緒させていただくことが多くなってきていて、かつ、やっぱりこういった会議の中に当事者である中山さんが加わってくださることということの意味合いが、僕はすごく大きなものがあると感じております。

そのコア会議のときにもお伝えはさせていただいたんですけども、やはり我々みたいな専門家と名のる者が幾ら何かを言おうとも、当事者の方々の経験談には到底及ばないものがあるって、やはり普及啓発活動をしていく上での中心というのは、やっぱりピアサポーターであつたりとか、当事者の方々であるべきということはお伝えをさせていただいておりました。

なかなか私どもの事業所の役割として、本来そこを担っていかなければいけないんですけど、うまく活発化できていないところでは、地域の事業所の皆様と一緒にこうやって活躍できる方々をサポートして下さっているというのは、本当に感謝を申し上げたい。一方で、先ほど出ていた、例えばメンタルヘルス・ファーストエイドで、やっぱり学校等、入り込めるのであれば、せつかくここまで資料をまとめて下さったりとか、準備して下さっているので、何か今日このアイデア一つちょっとやってみましょうという議論ができるといいなと思っています。

そこに、そのメンタルヘルス・ファーストエイドとか、例えばやっぴいこう、学校と一緒に中山さん、その支援事業者、委員である先生方にも協力いただき、みんなで学校に入って、経験談とか、実態のところを何か若者に伝えていこうみたいな取組が一つでもできると、また文京区の大きなきっかけになるんじゃないかなというふうに感じておりました。

高校3年でも全然遅いと思います。もっと初発って下手すると中学生、もっと早い時期から始まっていて、よりもっと早い介入が本来必要だとは思っているので、学校教育への介入というところを地域の支援者であつたりとか、行政、当事者の方、ご家族皆さん、民生委員さんとか含め、皆さんと入っていけるような体制づくりが本当の意味での普及啓発になるのかなというふうに感じましたので、ちょっとぜひ皆様、ご協力いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

事務局：退院後支援事業のことだけ、ご解答させていただきます。

長期入院者のところで、一つご意見があったんですけども、まず入院の入り口として措置入院の方を対象にしているというところで、そこがちょっと長期入院になりにくいところも一定程度はあるのかなと思っておりまして、やっぱり急性的に体調が悪くなって、治療することで一定程度よくなって退院していくという方が割合としては多いかなと思っております。ただ、やっぱりその中にどうしても治療うまくいかなくて、なかなか地域に帰れる状況に精神的な状態が落ち着かないというところで、長期入院になる方もいらっしゃいます。

そういった場合も一応関わりを続けているので、急に知らないところに後方転送されたとかいうことは防げているかなという意味では、長期入院を防ぐ一つの事業にはなっているのかなというふうに思っております。やっぱり新しく人員が配置された分、積極的に病院に対してアプローチができるようになって、こちらとしても自治体が主体として退院に向けたサポートをしていけるというところではいい事業だなと思って取り組んでいるところです。ありがとうございます。

星野委員：老松ケアサービスの星野と申します。

私もこの前のすみません、コア会議には都合がつかず、出席できなかったんですけども、うちの社として特に団体で実施しているような活動というのはなくて、仕事柄、私も各ご家庭に訪問して、そこで相談支援事業を行うということがほとんどなんですけれども、最近のご高齢者の方本人というよりは、ご家族にちょっとそういう精神疾患を患っているような方に出会うのが多いかなというのが実感でして、その際は、包括支援センターや文京区の高齢者の相談係の方と情報を共有しながらチームで、できればご家族及びそのご本人を支えていくように、自分では考えながら取り組んでいけたらなというのを日々思っています。

あとは、自分でそういう精神疾患のいろいろな研修とかがあると、そういうところに自分が参加して勉強をさせていただいているというようなのが現状です。今後もよろしく願いいたします。

以上です。

守谷会長：どうもありがとうございました。続いて、小澤委員お願いします。

小澤委員：精神保健福祉センターの地域体制整備担当の小澤と申します。

コア会議、二日目に参加させて頂きましたが、皆さんの現状など、忌憚のない意見を聞かせて頂くことができ、とても良い会だったと感じました。

文京区さんの特徴として、学校や病院が多いことや家族会も活発だということが出され、文京区の強みを生かして何かできないか、ということに話が進みました。

取り組み方として、何かターゲットを決めて取り組んだ方が良いのではないか。例えば、学校に仕掛けるとか、若い人たちをターゲットにすると良いのではないか、という意見が出されました。また、何か新しくするというよりも、既に色々良いものが沢山あるので、今ある取組をどうやって広げて行くか、深めるか。色々な点と点を繋げるところを丁寧に行っていくことが大切なのではないか、という意見が上がっていたと思います。

コア会議で話したことが本日の会議に上げられていることは、繋がりが実感できて良かったと思います。今後もどのような形になるか分かりませんが、ワーキンググループで出された現場の意見を協議の場に上げて行けるような仕組みができると良いと思っています。

文京区さんは、沢山、良い取り組みが既にあるので、あるものをどうやって工夫して繋げるかが課題だと思います。連携と言っても、形はできても、話が深まらなかったり、現場の声が上がって行かなかったり、実際の連携・つながりをどう強化していくのか、苦慮されている区が多い様に感じます。今回のコアメンバーのワーキングで出された現場の意見が話し合われるような会議になって行くと良いと思います。

もう一点、普及啓発と言うと、つい、研修会やチラシを作るということに焦点が行きがちですが、本日の会議でも出されていましたが、共生社会、障害の方と地域住民の方が一緒に作業をしたり、お手伝いをしたり、家族会でピアの方がお話をするなどの取り組みも普及啓発だと気づかされました。このような取り組みも含めて普及啓発のプランを考えて行けたら良いと思いました。

以上です。

大高委員：こんにちは。日本医科大学附属病院の精神科のソーシャルワーカーをしている大高と言います。

私もコア会議に参加させていただいて、ほかの委員の方もおっしゃっておられましたけれども、非常に穏やかなというか、率直なご意見が戦わせられる、共有できる場だったというふうに思っております。非常に建設的な議論が進んで、とてもいい雰囲気だったなと思います。

このコア会議の中で出てきたいろいろな意見、各施設の取組というのが、ほかの委員の方もおっしゃっていましたが、文字化されていて、とてもきれいにまとめられていて、これが非常に重要な資料だなと感じています。

このコア会議という場自体がとてもよくて、会議で上がった、まとめ上げられたものをこうして今日親会という形でほかの委員の方、全体で共有してという、こういう組立てなんだ

と思いますけれども、この資料自体が非常にいいなど。各団体のほうで実施されている取組というのを今回細かく丁寧に伺える機会があって、私も非常に勉強になりましたし、実際に各機関のほうで、特に私が印象的だったのは、障害福祉を担っておられる地域の各機関の方が住民の方とのユーザーとの接触という機会を非常に多く持っておられるというのが印象的でした。地域の催物ですとか、実施設で開催されるバザーなどで地域との交流というのが、非常に重要な活動だなというのも印象的だったなと思います。

それから、あと、この「にも包括」の中では、一つ共助というの也被言われているものだと思います。なので、メンタルヘルス・ファーストエイドというのが一つキーワードで出ていましたけれども、地域の中で感度が高い人たちというのを育成していく、これが一つの普及啓発なんだとは思いますが、対象をどういう人にやっていくかというの、これは本当に議論をして、絞り込んでいく必要があるんだろうなというふうには思いますが、自殺対策の中で、ゲートキーパーの養成が非常に重要で効果的ということも、これは科学的に今分かっていることで、それと同じように、これはもう継続的にやっていく一つの事業みたいな形で、ぜひ私個人の希望としては続けていただきたいなというふうに思っています。

やっぱり情報や経験というか、体験自体がやっぱり一般の住民というか、一般の市民の感覚では、不足しているのが現状なんじゃないかなというふうに思いますが、そういう中で、コア会議の中で出ていましたけれども、高校3年生からの学習要領の変更ということで、精神保健の知識を学生たちが学ぶ場ができてきているということなので、これはもってこいなのかなというふうに思いますが、ほかの委員の方もおっしゃっておられましたけれども、教育、大学ももちろんですが、高校の教育のほうにもこういったメンタルヘルス・ファーストエイドなのか、あるいはもう少し何でしょう、分かりやすい内容でもいいのかもしれませんが、メンタルヘルスに関する知識というものを教育していくような機会を、こういった機会にチャンスと捉えてやっていけるといいのかなと思いました。

すみません。私もあまりまとまらず、こういった会議ですとどうしても緊張してしまって、どうしても言いたかったことをあまり言えないなというのが、いつも悩まれます。

以上です。

福田委員：こんにちは。文京区医師会、こまごめ緑陰診療所の福田と申します。コア会議は診療時間と重なったために参加できず残念でした。私どもの診療所で行っている事についてお伝えします。AA（アルコール・アノニマス）というアルコール依存症の方達がお酒を止め

続けるために集まって、ミーティングと言う集まりをして自分たちを振り返ります。その自助グループの方達がメッセージミーティングを月に一回診療所でしてくれて、通院中の患者さんの断酒の手助けをして下さいます。大変ありがたいと思っています。

先ほどから、若者に対しての普及啓発というお話が出ておりました。この会議のメンバーにスクールカウンセラーの方だとか、大学の保健センターみたいなところの方にも入っていただくのはいかがでしょうか？今の学校の状況などがわかると思いました。

以上です。

成塚委員：文京区薬剤師会の成塚です。コア会議には時間とあと月末月初ということもあり、参加できなくて本当に申し訳ございませんでした。

先ほど中山さんからもお話がありましたけれども、先日の百貨店祭り、本郷台中学校で毎年やっているのですが、私は体育館のほうで健康フェスティバルとして、歯科医師会と薬剤師会合同の下、地域住民の方の健康チェックという形でやらせていただきましたが、あの雨の中に、かなり盛況だったんですよ。びっくりするくらい人がいて、コロナ禍にこんなことをやっていいんだろうかと思うぐらい、体育館もいっぱいになってしまっ。雨でちょっと肌寒い中、本郷の森の方々もうちのほうのブースにも顔を出していただいて、手洗いチェックをやっていただいたりとか、本当に協力、うまい連携ができています。正直コア会議に出ていたら、こういうことをやろうとか、事前にお話できたんじゃないかとか、そういうことも踏まえてちょっと後悔しているところがございます。

やはり今年の百貨店祭り、あちらの会場に来ていた方が、あれはもうずっと毎年やっているのですが、雨ということもあったのか、人数はこのコロナ禍ということで出足は弱かったんですけども、その分若い方が多かったです。若い方の比率が明らかにここ数年上がってきている。特にベビーカー連れ、お母様方がお子さんとか連れてきたり、健康チェックをしに来る方が、以前だったら口腔内チェックもするものですから、歯科医師会と共同して。なので、結構ご高齢の方が多かったんですけど、若い方がその中になんか増えてきているなと思いました。

先ほど来、地域の交流とかそういうのをお話されていますけれども、こういった場所があまりいろんなところでやられているというわけではないものですから、本郷台中学校の商店街との連携の上の、ちょっとお祭りみたいなものなんですけど、ああいったのが文京区のほかの地域でもできていければなと本当に思うような、地域物産展みたいなものを踏まえたりとか、なかなかこのコロナ禍で人を集めるというのがぎりぎりのラインだなと思いましたが、

今回。場合によっては宣言明けでなかったら、ちょっと多過ぎるよ、密過ぎるよということで、怒られてしまうんじゃないかなというくらい集まるくらいのもので、せめていろんところで分散して、いろんところで、いろんな団体が協力の下、やっていけたらいなというのは感じました。

以上です。

守谷会長：ありがとうございました。

最後に澤田委員と、平賀委員の順でお願いします。

澤田委員：こんにちは。東京大学、いつも自分の所属の名前が最近変わったので忘れちゃうんです。相談支援研究開発センターの澤田と申します。よろしくお願いします。

私もコア会議に出席させていただいて、非常によかったなというふうに思います。こういう緊張するような場でなくて、ざっくばらんに話せるというのはいいことなんじゃないかなと思いますね。こういう緊張する場も必要かもしれませんがね。

それで、そこでやっぱり意見として出てきたのは、文京区の強みと弱みと言ったらいいか、欠点と、ちょっと整理して、お互いの現状が見えてよかったんじゃないかなと思います。私も文京区の状況とか、一応頭には精神科医として入れているんですが、やっぱりどうなっているのかなとか、そういうのが分からないし、1対1で対応したりとか、そういう患者さんが施設を利用するとなると関わりがあったりするんですけど、患者さんを通じなかった場合どうなっているのかなとか、見えてこなかったりするんで、こういう場があって、それぞれが活動しているのが見えたのがすごくよかったなというのは思います。

やっぱり、どうしても患者さんを通じて交流があったりすることがあるので、通じてないときはそういうのがあったのを忘れていたりとかして、非常に情けない話なんですけど、こういう場があったおかげで、そういうお互いの連携が見えてきていいんじゃないかなと思います。

ただ、連携といっても実際になかなか点と点を結んだりとかというのは、難しいというのが現状だと思うんですね。やっぱり断絶してしまったりとか、つながりをつくりにくいというのはあると思うんですね。やっぱりどうしても精神科の特徴とか、やっぱり病状が、個性がすごく高いというのと、病状自体がともすると、下手すると、具体的な病状とか言ってしまうと開示につながってしまったりするので、なかなかお互いにこういうときにどうしているとか、こういうときにこういう活動をしているとかというのが、なかなか言えない。そうすると専門用語で、例えば幻聴があるときはどうか、何か難しい言葉がだんだん増えて

きて、一般化しちゃうと、何か素人の人にはよく分からない何か難しいことがあるのかなみたいになってしまうので、そこの連携とか啓蒙教育とかという、なかなか難しい課題をはらんでいるかなと思います。

具体的でより分かりやすく体験談——当事者の人が体験を語るとか、そういう表現をするというような場面があるというのが分かりやすくていいかなと思いますが、一方で危険性としては、そういう開示、強制的な自己開示につながって、負担になってしまうということとかもちょっと心配しなきゃいけないかなというところなので、そこら辺をうまくやれるのがよいかと思います。

やはり地域の問題となると、どこの地域もそうなんですけれども、どうしても高齢化があるので、高齢者の支援ということに目がいきやすいというのが、やっぱりあると思うんですが、一方で若者に対する教育とか、啓蒙を行うことで、最終的には社会全体がよくなるということが期待されると思います。

特に文京区はやっぱり強みの中であつたとおり、学校が多い区ですし、区の名前自体が「ブンキョウ」と言っている時点で、学校が多いと思うんですね。学校が多くて若者が多いんですけど、文京区の大学に来ている若者は、文京区に帰属意識があまりないような気がします。やっぱりそこにちょっと分断があると思うんですね。文京区、やっぱり下町的な昔から住んでおられる方も多くいて、そこと大学に、場合によっては、文京区はアパート代とかも高いですので、区外から通っている若者、学生とかの接点はなかなかないんじゃないかなと思います。だから、そこら辺の問題はどうするかというのも、これからの課題になるのかなと思います。

大学のほうでは大学保健管理協会だとかというところで、学会とかがあつたりして、保健センターの医師が情報交換したりしてはいるんですけど、なかなかそういう大学同士で連携して、メンタルヘルス・リテラシーを上げるとかいうことは、あまりやられていないのが現状かなというので、何か地区単位でそういうのができると、区への帰属意識とか、地域の帰属感とかができてきていいのかなと思います。行く行くは文京区からまた若者は離れていくと思うんですけど、その区でも文京区で学んだモデルを日本全国、はたまた世界に持って行けるといいんじゃないかなと思うんですけど、そういうようなモデルになるような区であつていただけるといいかなとは思っています。

あと、高校生とかもそうですね。高校生の保健に精神疾患のことが取り上げられるということがありますが、これも先ほどと同じように、一般化して難しくしちゃうと、スティグマ

化されるというのがおそれとしてちょっとあります。かといって、具体的にすると、今度それもそれで、当事者の皆さんの負担になったりとかというところもあったりして、なかなか難しいんですが、そこら辺は我々東京大学でも研究して、どういうふうにしたらいいのかなと考えているところではありますので。そういったところが文京区で生かしていけるとよいなというふうに考えております。

すみません。私も何かまとまらなくなっていました。どうしても、こういう場だと緊張してうまく話せません。また、じゃあ、よろしく願いいたします。

平賀委員：皆さん、こんにちは。精神保健福祉センターの平賀と申します。

私もコア会議に参加させていただいて、普段着スタイルで、今ほど緊張せずに話が出来ましたが、今日はきっちりした格好での参加なので緊張しています。今朝、今日来るときに当センターの小澤のほうから何を話すんですかと言われて、考えながら来ましたがうまく思い浮かばなかったので、皆さんのお話を聞きながら感じたことをお話しします。

国の資料にあり、説明によく出てくる「にも包括」の図柄ですけど、下の方に個別のケースと一緒に検討するところが記され、上の方に基盤整備をどうしていくのかを検討することが記されています。その二つのことをつなげながら支援体制について検討していくことが必要とされています。もう一つは保健医療の基盤整備と福祉の基盤整備をどうつなげていくかということが必要と、このマトリックスの四つのところをどう連携させていくのかみたいな図が出てくるんですけど、まさに今日の話は、全部その図に示されているところに集約されてくるなという感じがあって。文京区の実組で、今考えられている普及啓発というのは、基盤整備全体をつくっていくところの一番下支えになる、一番大きな柱となるところをやって、もう一つは、措置入院の方の退院後支援という、最も個別に関連した内容、その両方をやっているという、ある意味、すごく極端な部分を取り組みながら、つまり個別のところとすごく広がっている普及啓発というところをやりながら、お互いの医療、福祉、保健のつながりをどうしていくかということを検討するという、何か先程の図を実践する、すごいいいテーマというんですか、ここを中心に、お互いに考えていけることになるのかなというふうに思います。

この間のコア会議を聞いていても、今日のお話を伺っていても、なるほどなと思いましたけど。我々どうしても行政の者が普及啓発というと、刊行物作って、講演会を打つてというのがすぐ普及啓発として頭に浮かんでくるんですけど、そうじゃなくて、やっぱり今日のお話にもありましたけど、お祭りをやったりとか、近所のお掃除でしたっけ、そのお手

伝いをしながら近所との顔の見える関係をつくっていくともありますし、大学の中でそういう若者をターゲットとして、ターゲットを決めたところに集中的に何か伝えていく、実際顔が見えるような関係の中で伝えていくというのも、これもまた大事な普及啓発の取り組みだなと思いました。

普及啓発はすごく広いし、お互い実はこうやってやっているよということがあまりみえていないところもあって、みんなで今やっていることを持ち合って話し合うことで、うちこんなことをやっている、じゃあ一緒にこんなことをやってみましょうかというのが、まさに協議の場の大事なところと感じました。「にも包括」の取組では、協議の場をつくることが求められていますが、今日の会議も協議の場ですし、コア会議も協議の場なんですけど、顔が見えるなかで話すことの大事さを感じました。先ほど大高さんのお話に、高齢の中では特に自助、共助というのがないと、もう公助、互助だけでは、もうどうにもならないということが出てきましたけど、まだ精神の領域で共助は難しいと感じます。先ほどの当事者の方のお話もありましたけど、どこまでみんなが本当に理解してくれているのか、また誤解されているんじゃないかということもあるので、この理解の促進というテーマというのはやっぱり大きいし、そこを多分さつき美濃口さんがおっしゃられたように、みんなが一緒に何か取り組んでいくことを決めて、やっていくことで、顔が見える関係を実際につくっていくことにもなると思います。そうやって出来た場でさっきの個人情報のお話もありましたけど、行く行くはもしかしたら措置入院の方の退院後支援の中に出てくるようなテーマを、今度行政の方のほうから、例えば住まいを探すなどのテーマを抽出してもらって、今度はそういう話をしていくふうにしていくとか、ということも出来ると思います。。

何かそんな普及啓発をしながら顔の見える関係をより強化していくみたいなふうに、普及啓発をそういうふうにご利用していくことも出来るかと伺っていると感じたところです。それで何かテーマを決めるとすると、さつき皆さんも言っていたように、若者に対するということが出てきているので、その辺一つ決めて、澤田先生がいらっしゃるの、どうやってやっていったらいいかということをお知恵を借りながら何かやっていくと、いいことができそうだなというふうに、感じたところではあります。

以上です。

守谷会長：どうもありがとうございました。

このほかにご意見がある方、いましたら挙手してください。

(なし)

守谷会長：ないようなので、最後に事務局よりコメントをお願いします。

予防対策課長：それでは、今回意見交換いただいたご意見、それぞれを基に、コア会議の実施方法等、次回の協議会にて翌年度以降のスケジュールも含めて、お示しさせていただきたいと事務局では考えてございます。

本日はご意見いただきまして、本当にありがとうございました。

守谷会長：いろいろご意見、ありがとうございました。

多方面からの多くの意見、ご指導があり、私としては有意義な会であったと思っております。この内容をベースに、これからの精神保健福祉に生かしていただければと思います。

ただいま、全ての議事を終えましたので、地域精神保健福祉連絡協議会はこれをもって終了とさせていただきます。

最後に事務局の方、事務連絡よろしくをお願いします。

事務局：ご協議ありがとうございました。事務連絡として2点、お願いがございます。

1点目は、報酬についてです。支払先について、個人ではなく所属している法人宛に新たに変更を希望される委員がおりましたら、この後、事務局のほうまでお伝えをいただければと思います。

もう1点、次回の開催の予定につきましては、令和4年度2月頃を予定しております。またよろしくお願いたします。

以上となります。本日はありがとうございました。

以上